



平成25年度 国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座 参加報告

平成25年11月11日～12日に国立国会図書館国際子ども図書館で行われました、平成25年度国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座の内容について報告します。

総合テーマ 「英米児童文学をめぐる時代と環境」

監修者 川端有子（日本女子大学家政学部児童学科教授 国立国会図書館客員調査員）

◆講義概要◆

児童文学は、時代や社会的背景とは関係なく生まれてくるとは思われますが、児童文学を書いているのはおとなであり、児童文学の中の子ども像には、「過去・現在・未来」の時代が幾重にもなって、反映されていることがわかります。今回は、「時代」を子どもたちに語る歴史小説から始め、「セクシュアリティ」、「環境」、「ジェンダー」などがどのように時代と絡みつつ、子どもたちに語られてきたか、そして語られているかを、英米の児童文学を中心に考察しました。

◆講義内容◆

（1）イギリスの歴史物語の流れ 本間裕子（青山学院大学非常勤講師）

歴史小説の起源から、初期の歴史物語、大英帝国最盛期における帝国主義と、その主流から外れた視点を持つ歴史物語、2度の大戦を経て、混沌と多様な価値観を反映した時代の物語など、年代順を追って解説がなされました。

（2）児童文学が描くイギリスの風土と子ども 内藤貴子（昭和女子大学ほか非常勤講師）

イギリスの風土を題材に、様々な作品に関連ある地域の写真や文化と共に紹介。特に近年の児童文学から、デイヴィッド・アーモンド『ヘブンアイズ』、シヴォーン・ダウド『ボグ・チャイルド』を取りあげ、その地域の特性と物語を絡め、作品に隠された作者の意図を浮き彫りにしました。

（3）児童文学とセクシュアル・マイノリティ 水間千恵（川口短期大学こども学科専任講師）

主にアメリカで出版された若者向け（YA）の児童文学から、セクシュアル・マイノリティを扱った作品、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）文学を題材に、社会の動きとそれを反映する児童文学の姿を追いました。

（4）歴史とジェンダーをめぐる

～バーネットの『小公子』『小公女』とマロの『家なき子』『家なき娘』の場合 川端有子

2人の作者のそれぞれ2つの作品タイトルにつきまとう誤解の解明と、それぞれの類似点と相違点、舞台となった時代と地理的環境から、近しい時代に書かれた4作品を読み解きました。

なお、詳しい講義録は、今後、印刷版発行と、PDFファイルによる国際子ども図書館ホームページで公開されます。過去に行われた（平成16年度～）各講義の印刷版講義録は、児童図書研究室で所蔵しています。

★国立国会図書館国際子ども図書館ホームページ★

児童文学連続講座 平成25年度 <http://www.kodomo.go.jp/study/chair/outline/25.html>

現在、各講義で配布されたレジュメが公開されています。



福島県立図書館 展示コーナー企画

村岡花子からのおくりもの

～『赤毛のアン』から『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』まで～

2014年3月7日（金）～6月4日（水）

生誕120周年をむかえた村岡花子の生涯と、児童文学者としての仕事を紹介します。



【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

